

第4章 観光振興事業

計画期間の8年間を通じて「国際観光都市すみだ」を実現するための基本施策を、5つの観光振興事業として定めます。個々の具体的な事業は、この5本の柱に沿って展開していきます。

- 1 江戸から未来まで体験できる、多彩な「界限」をつくる
- 2 多様な資源を活かし、「物語」のある回遊コースをつくる
- 3 四季折々の感動に出会える、「イベント満載のまち」にする
- 4 来街者を優しく迎える「iのまち」をつくる
- 5 快適な歩行空間と交通ネットワークを整備する

1 江戸から未来まで体験できる、多彩な「界限」をつくる

墨田区には、江戸時代から現在、さらには近未来まで、さまざまな時代の息吹を感じさせる事物や街並みが存在し、個性豊かな「界限」が区内の随所にみられます。

大都市においては、近代化の波とともに、街並みの画一化、無個性化が徐々に進んでいます。こうした流れに抗して、長い年月のなかで培われた特色ある環境や文化を守り、あるいは現代の中に再生することが、国内外の多くの人々を引き寄せる力になります。

界限やコミュニティ、あるいは路地や横丁などにも確かなまなざしを向け、新しい光を当てて輝かせることは「国際観光都市すみだ」を構築する重要な施策です。

先に挙げた8つの「観光拠点エリア」で、このような「界限」の活性化、再生にきめ細かく取り組んでいきます。

(1) 両国エリア

[コンセプト] 江戸以来の伝統文化を世界に発信するまち

[主な観光資源] 北斎館（仮称）、国技館（相撲博物館）、江戸東京博物館、旧安田庭園、吉良邸跡、回向院、横網町公園（東京都慰霊堂・復興記念館）、両国花火資料館、ちゃんこ料理店、相撲部屋、水辺ライン両国発着場、両国駅、伝統工芸、劇場、宿泊施設など

[現状] 江戸東京博物館、国技館などの大規模施設の立地でエリア内集客力は年間 200 万人超

[整備の考え方] ○タワー竣工にあわせ、エリア内に北斎館（仮称）が開館予定
○エリア内の「江戸」の魅力をさらに高め、海外からの集客を含めた来街者の受け入れが可能となる整備

[取り組みの例] ①「相撲の本場」、「握り鮓の発祥」などテーマ性を持った観光キャンペーン
②「ちゃんこ」をはじめとした食の魅力のPR
③国技館や江戸博への来場者を対象とした回向院、安田庭園など周辺の観光ポイントへ回遊性を高めるツアーやイベントの実施
④「駅周辺の観光案内所」や「外国語併記の観光案内板」など、案内性向上への取り組み
⑤北斎館（仮称）周辺の街並みにおける「江戸風情」のPR
⑥隅田川水辺テラスを活用したイベント展開
⑦両国ならではの歴史性の高いツアーやイベントの実施

[参考：これまでの取り組み例]

- ①文化観光調査報告書「両国回廊」を公表（昭和 63（1988）年）
- ②地域の祭りや季節行事、忠臣蔵関連イベント（義士祭・吉良祭・元禄市・義士茶会）などを継続的に開催
- ③両国にぎわい春まつり、北斎まつり、YUKATA de ガイドツアー、すみだ時代まつりなどを近年新たに開催
- ④両国地区臨時観光案内所を設置
- ⑤両国駅乗降客等へのアンケート調査を実施
- ⑥北斎館（仮称）施設整備方針を策定
- ⑦江戸東京博物館との連携（文化観光コーナー設置など）



(2) 錦糸町エリア

[コンセプト]音楽、ショッピングモール、エスニックフードなど、多彩な文化に出会えるターミナルのまち

[主な観光資源]トリフォニーホール、錦糸公園、オリナス・モール、東京楽天地、エスニック料理店街、錦糸町河内音頭、ガラス市、「本所七不思議」、ストリート・ミュージシャン、ダービー通り、宿泊施設など

[現状]東の副都心錦糸町は、都市公園やコンサートホール、ショッピングモールやデパート、グルメスポットなど、芸術や生活文化を楽しむための都市機能が集積し、若者が行き交う

[整備の考え方]○近年のダイナミックな街の変化をとらえ、商業・アミューズメント機能をエリア全体で面的に連携させ、アメニティのさらなる向上

○主要路線が交差する交通ターミナル機能を活かし、人々を引きつける「街の魅力」の発信

○タワービューを眺めながら街歩きが楽しめる仕掛けづくり

[取り組みの例]①タワービュー通り、タワービュースポットをめぐる街歩きの仕掛けづくり

②庶民派グルメの街「錦糸町」のPR

③錦糸町エスニックタウンのPR

④駅周辺で活動するストリートミュージシャン等を、今日的なサクセスストーリーの主人公として紹介

⑤錦糸公園・大横川親水公園におけるイベント開催

[参考：これまでの取り組み例]

①文化観光調査報告書「錦糸遊覧」を公表（平成3(1990)年）

②すみだまつり、錦糸町河内音頭、錦糸公園桜まつり、ガラス市などの継続的開催

③錦糸町駅北口地区再開発事業が完了

④太平地区に大型ショッピング・モールが開業

⑤錦糸公園の改良工事が完了



(3) タワーエリア

[コンセプト]都市文化が創成され国内外から訪れる人々が交流するまち

[主な観光資源]新タワー（展望台・周辺街区）、北十間川、大横川親水公園、鬼平ゆかりの地(春慶寺)など

[整備の考え方] 世界中から集まる来街者がタワーのある街の魅力を楽しめるよう、区内観光の玄関口としての機能の整備
観光プラザ（仮称）から観光情報を発信し、周辺エリアへの回遊性の確保などの整備をハード・ソフト両面で実施
タワー街区の施設計画を考慮し、長期的な戦略で集客を図るための整備の実施

[取り組みの例] タワービュー通りの整備
タワービュー・ポイントの整備
北十間川親水空間の整備
観光プラザ（仮称）の開設
VISIT JAPAN WEEK など国と連携した観光イベントを開催
タワーを日本（東京）のシンボルとして定着させる展開
タワー建設の過程を活用した観光振興

[参考：これまでの取り組み例]

文化観光調査報告書「吾嬬浪漫」を公表（平成4（1992）年）
光タワーイベントの開催（タワー誕生のプレイイベント）
新タワーの高さとタワービューのイメージを実感するために、地上からの複数のサーチライトをタワーの高さで交差させる試みの実施。イベント実施に必要な資金は、寄付者を「旦那衆」に見立てて、個人の募金を中心に開催。



©東武鉄道株式会社 新東京タワー株式会社

(4) 吾妻橋エリア

[コンセプト]浅草から区内各所へのゲートウェイ、水陸交通の結節するまち

[主な観光資源]吾妻橋、隅田川親水テラス、吾妻橋リバーピア（炎のオブジェ）、
観光案内所、勝海舟像、防災船着場、佃煮店、外国人向宿泊施設
など

[整備の考え方]都内最大の観光地浅草に隣接した地の利を生かし、タワーをはじめ
区内の各観光拠点へのゲートウェイ（玄関口）としての整備の推
進

[取り組みの例] 水辺空間をオープンカフェなどに活用
ライトアップなどを行いゲート空間として演出
浅草からタワーに向かう来街者の増加を想定した、観光案内所の
機能強化など案内性向上のための整備
台東区（浅草・上野）との連携強化

[参考：これまでの取り組み例]

文化観光調査報告書「向島逍遥」を公表（平成元（1989）年）
勝海舟銅像が建つうるおい広場を活用して、勝海舟顕彰会がフォー
ラムと街歩きのイベントを定期的開催
すみだ観光案内所の開設
「大東京和おどり」や「隅田川おどり」などの季節イベントを定
期的に開催
隅田川の親水空間で、テレビや映画のロケの実施
夏季に親水テラス上にステージを設けて、ジャズなどの生演奏を
楽しめるオープンカフェ（ビアテラス）を実施。この地にビール
工場が稼動していたことを紹介する写真展など、様々な併催イベ
ントを実施。



(5) 向島エリア

[コンセプト]タワーと隣接し、江戸から昭和の風情を体感できるまち

[主な観光資源]隅田公園（墨堤桜並木、日本庭園）、牛嶋神社、見番通り・料亭街、隅田川七福神、百花園、隅田川親水テラス、隅田川花火大会、レガッタ、伝統工芸、幸田露伴住居跡など

[現状]隅田川花火大会や墨堤さくらまつり、隅田川七福神など集客力のある行事や、百花園などの伝統のある観光名所のほか、都内で最大規模を誇る「花街」がある。

[整備の考え方]○料亭文化を色濃く残すエリアとしての街並みや街路の整備促進
○ディープな下町の魅力を楽しむための商品やイベント、サービスの開発

[取り組みの例]①見番通りの修景・景観整備
②向島ブランドの開発
③人力車の復活
④向島の「和スイーツ」のPR
⑤向島の「粋」や「技」を活かしたイベント展開
⑥隅田川七福神めぐりの案内性向上

[参考：これまでの取り組み例]

- ①文化観光調査報告書「向島逍遥」を公表（平成元（1989）年）
- ②墨堤さくらまつりで毎年 25 万人以上動員。向島芸妓茶屋などが人気
- ③隅田公園に早咲き・遅咲き桜の植栽で桜の保全・創出を行うほか桜のライトアップを実施。桜植栽に集まった募金は目標額を超える。
- ④正月を中心に隅田川七福神めぐりを開催。都内・近県からの参拝客が多く、街歩きやバスツアーの観光商品にも組み込まれる。
- ⑤民間の旅行会社が向島の魅力満載日帰りツアー（墨田区文化観光協会が企画協力）を開催
- ⑥浅草観光連盟と連携し、さくらまつりのイベント紹介を兼ねた隅田川兩岸マップ等の作成



(6) 京島エリア

[コンセプト]昭和レトロの下町路地空間を随所楽しめる散策のまち

[主な観光資源]向島橋銀座商店街、香取神社・香梅園、路地空間、ものづくり工房など

[現状]交通結節点である曳舟地区で再開発事業が進行

[整備の考え方]路地など、ヒューマンスケールの懐かしい空間を残しながら散策コースなどの整備促進

[取り組みの例]①空き店舗・空き家・工場等を観光商品として活用
②ロケーションボックスの開発
③「路地散策マナーブック」の制作

[参考：これまでの取り組み例]

- ①文化観光調査報告書「吾嬬浪漫」を公表（平成4（1992）年）
- ②路地裏のたたずまいなどを掲載した「京島ロジコミマップ」を発行
- ③アートカフェなど、空き家や空き店舗を活用したアートとまちづくりの拠点を開設

(7) 鐘ヶ淵エリア

[コンセプト]梅若伝説に出会え、都市防災が体感できるまち

[主な観光資源]木母寺(梅若塚)、榎本武揚像、多聞寺、防災拠点、東白鬚公園など

[現状]鐘ヶ淵エリアは梅若伝説で有名な木母寺があり、江戸期以来文人墨客が訪れる水辺空間がある。

[整備の考え方]水辺と白鬚東防災拠点の特色を生かしながら、歴史あるエリアの魅力を情報発信する。

[取り組みの例]①梅若梅まつり
②梅若を題材にした「隅田川芸能」の上演
③防災まちづくりツアー

[参考：これまでの取り組み例]

- ①文化観光調査報告書「墨東探訪」を公表（平成2（1990）年）
- ②東白鬚公園で地元団体が年間を通じて鯉のぼりフェア、イルミネーションなどのイベントを開催
- ③木母寺で毎年行なわれる梅若忌で謡曲「隅田川」を上演

(8) 八広エリア

[コンセプト]川辺の自然の風を満喫できるまち

[主な観光資源]サイクリングコース、荒川水辺空間、ヒヌマイトトンボ生息地など

[整備の考え方]荒川周辺の周遊・サイクリングを楽しむ荒川へのゲート空間として
位置づけ、リバーサイド・レクリエーション機能の充実

[取り組みの例]①川風サイクリング・フェスタ

②変わり自転車の体験・BMX(バイシクル・モトクロス)競技
のコース設置

[参考：これまでの取り組み例]

①文化観光調査報告書「吾妻浪漫」を公表(平成4(1992)年)

②平成17(2005)年、河川愛護月間にあわせて荒川下流の自治体
が輪番で開催しているアウトドア・イベント・イン・アラカワを
墨田区で開催

2 多様な資源を活かし、「物語」のある回遊コースをつくる

墨田区には江戸文化、職人技、食、相撲など、多様な観光資源が豊富にあります。

一方で来街者も、年齢層や居住地、国籍、グループの人数、あるいは特定のテーマに深いこだわりをもって観光する「個衆」など様々です。

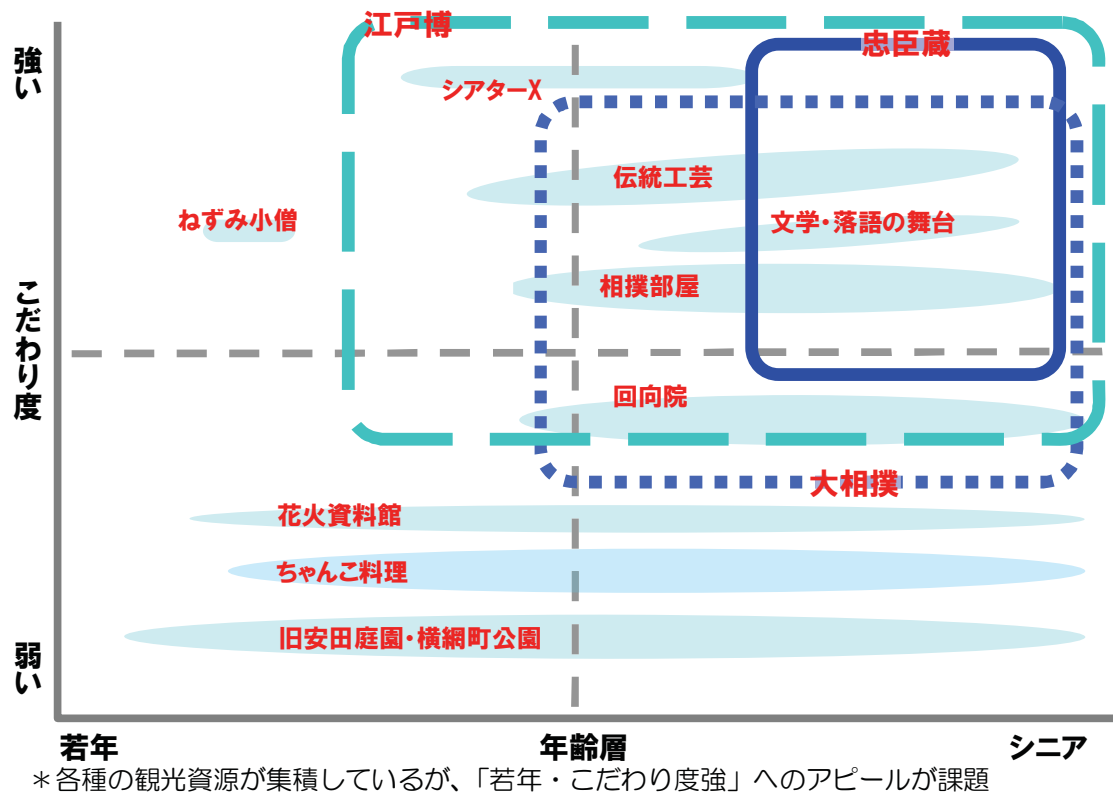
さまざまな魅力をもった墨田区の観光資源の中には、すでに多くの来街者をひきつけているものもあれば、まだ、深く潜在しているものもあります。これらのひとつひとつの観光資源について来街者ニーズを分析し、資源にまつわる豊かな「物語」とともに提供し、存分に楽しんでもらえる魅力ある回遊コースを整備します。

(1) テーマ・ターゲット別観光コースの設定

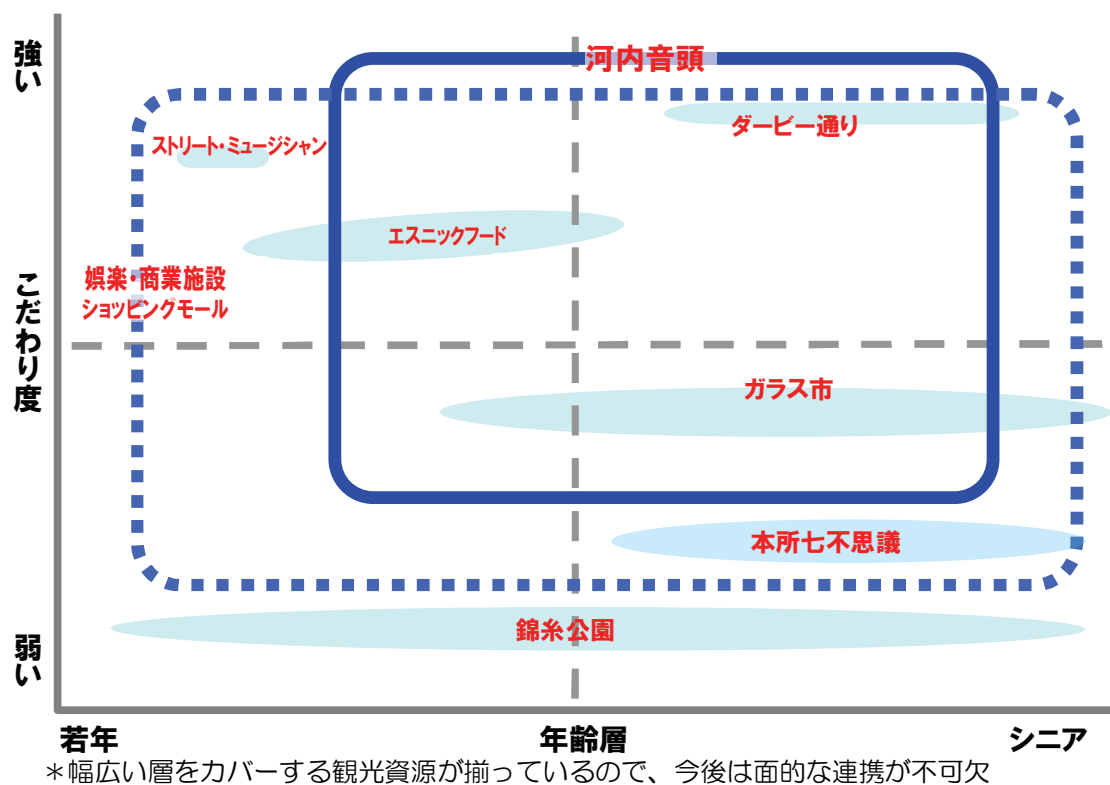
区内の様々な地域資源を活用した「こだわり」のあるテーマを盛り込み、ターゲットとする来街者の特性やニーズを反映させた、テーマ・ターゲット別観光コースをつくります。

ここでは、個々の観光資源についての「テーマに対するこだわり度」と「年齢層」に着目し分析した観光コースを設定するため、ターゲットに対応する観光資源を整理したモデルを、観光拠点エリアごとに例示します。

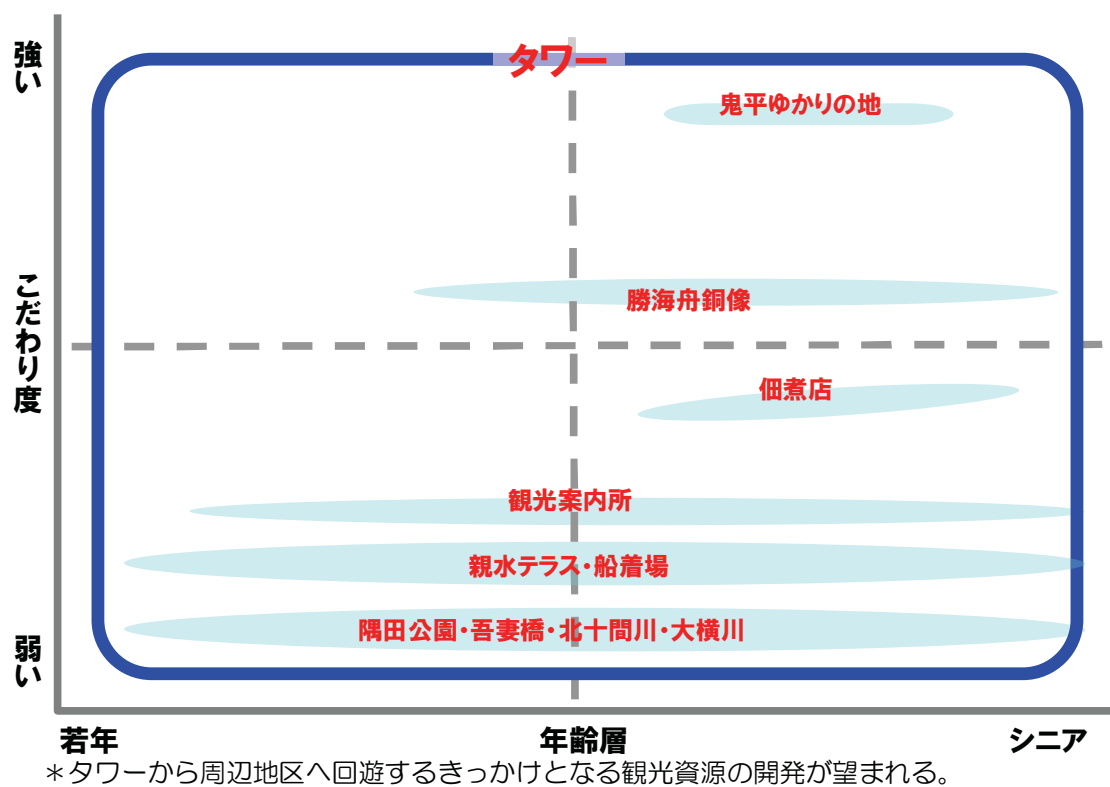
① 両国エリア観光資源の整理モデル（例示）



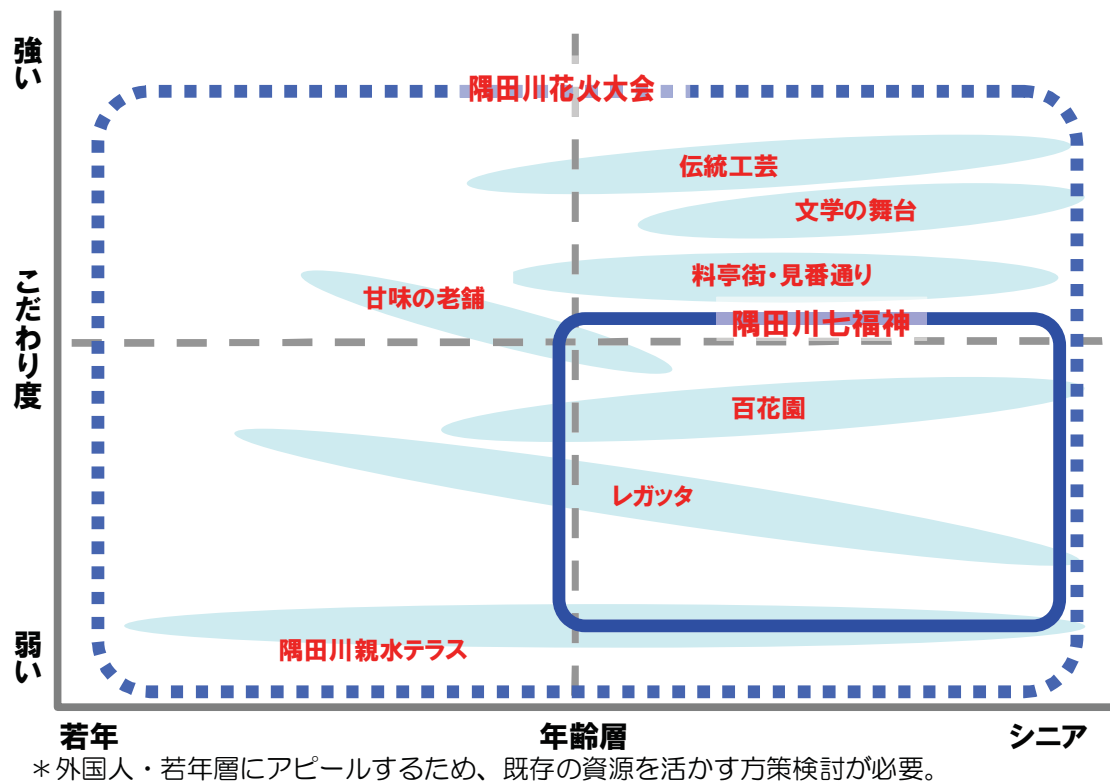
② 錦糸町エリア観光資源の整理モデル（例示）



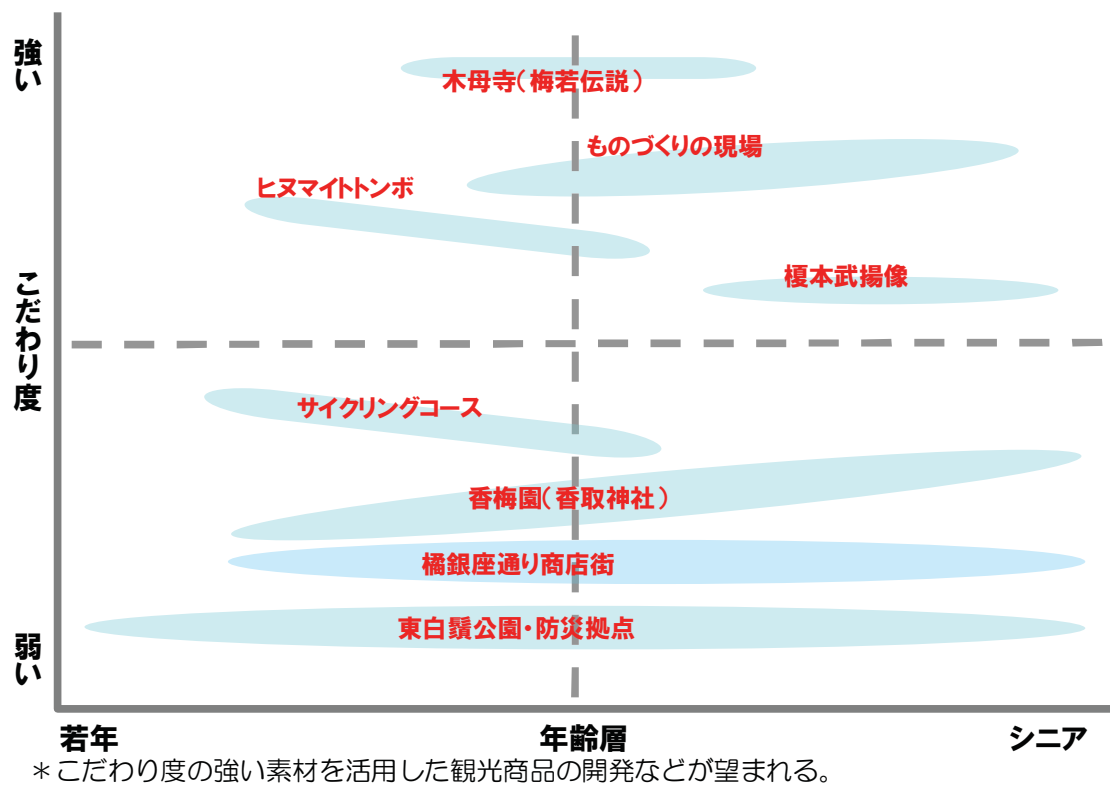
③ 新タワー・吾妻橋エリア観光資源の整理モデル（例示）



④ 向島エリア観光資源の整理モデル（例示）



⑤ 京島・鐘ヶ淵・八広エリア観光資源の整理モデル（例示）



「テーマに対するこだわり度」と「年齢層」の組み合わせごとに、以下の方向で観光コース（イベント開発を含む）を設定します。

・若年層（またはファミリー層）・こだわり度強い

この層は、強いアピール性があるイベント等の開発が有効と考えられます。

・若年層（またはファミリー層）・こだわり度弱い

この層のリピーターを増やすためには、観光資源をバランスよく含んだコース設定を行うとともに、誰もが参加できるイベントの開発が必要となります。

・シニア層・こだわり度強い

それぞれの観光資源の見学時間を十分に用意し、エリア内のこだわりの飲食を組み合わせた一日たっぷり、場合によっては宿泊も選択できるコース編成も考えられます。また、こだわりに応えられるグッズやみやげ物の開発を検討する必要があります。

・シニア層・こだわり度弱い

誰もが知っており、興味のもてる資源を中心に手軽に参加できる半日程度のコースが想定されます。地域を代表する食をアピールする仕組みが必要です。

（2）コースを巡る仕掛けづくり

来街者が各コースを心地よく回遊できるよう、コースの特性を考慮し、戦略的・計画的に案内所やお休み処、きれいなトイレの整備、テーマ別ガイドブックやマップの作成などの充実をはかります。あわせて、地域の歴史を感じさせる旧町名の活用などを進めます。

3 四季折々の感動に出会える「イベント満載のまち」にする

春は墨堤さくらまつり、夏は隅田川花火、秋は向島百花園の萩観賞、冬には義士祭・吉良祭などが、区内には季節を感じさせるイベントがあります。

しかし、イベントの数や質、参加者数に目を向けると、改良の余地が大きく残されています。とくに、若者や外国人向けのイベントが不足しています。

また今後、新タワー完成に向け、建設の段階から広く内外にアピールするイベントの開催、完成後のタワーの存在を活かした大小さまざまなイベントの開催も必要となります。

多様な来街者ニーズを敏感に感じとり、どの時期に墨田区を訪ねても楽しめるイベ

ントを提供するために、四季折々に季節資源に着目し、イベントの新規開発、既存イベントのリニューアルを行いながら、四季折々の感動に出会える「イベント満載のまち」すみだをめざします。

(1) 四季折々のイベントの開発とパワーアップ

墨田区には、季節感や年中行事に関わりの深い資源が多いので、その特色を發揮させ、「花」「市」等をテーマとした四季折々の特色あるイベントを開発し、すみだ観光の通年化をはかります。

また、墨田区では現在、次頁に掲げたようなイベント・祭などが1年にわたって開催されています。これらのイベントのうち、可能なものについてはイベントの企画、実施、評価、改善向上策の検討について「PDCAサイクル」(下図参照)による事業評価システムを導入し、イベントのパワーアップをはかります。

■PDCA サイクル

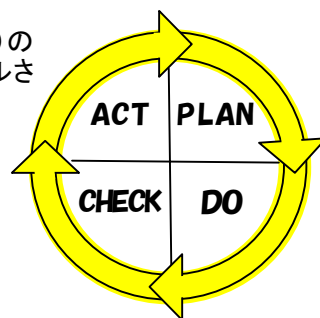
事業を、計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(act)のプロセスで実行し、このプロセスをらせん状に繰り返す(サイクルさせる)ことによって、品質の維持・向上、業務改善をする考え方。

Plan……目標を設定して、それを実現するためのプロセスを設計(改訂)する

do……計画を実施し、そのパフォーマンスを測定する

check……測定結果を評価し、結果を目標と比較するなど分析を行う

act……プロセスの継続的改善・向上に必要な措置を実施する



(2) タワーを活用したイベントの開催

タワーを国内外に広く伝え、「タワーのあるまち」に多くの人を訪れるようなタワー関連イベントを継続的に開催します。

集客力が高いタワーを生かし四季折々のイベントを、タワーエリアに設置される観光プラザ(仮称)を活用しながら開催します。また、教育分野・産業分野と連携することで墨田区ならではのユニークな展開を図ります。

すみだ四季のイベントカレンダー

| | 月 | 花 | イベント・市 | 伝統行事 | 祭事 |
|---|-----|---|--|--|--|
| 春 | 3月 | さくら堤通り花まつり 墨堤さくらまつり 錦糸公園桜まつり  | | 23万人の平和祈念事業 春季大法要 | |
| | 4月 | | 早慶レガッタ すみだ鯉のぼりフェア ガラス市 | 梅若忌 | |
| | 5月 | | 両国にぎわい春まつり 大相撲五月場所 東京都ウォークラリー 大会  | 木遣り歌奉納 | 徳之山まつり ぼんでん祭り 杉山検校祭 万燈神輿 隅田稲荷神 社例大祭 |
| 夏 | 6月 | | | | 白鬚神社例祭 隅田川神社例祭 |
| | 7月 | | 隅田川花火大会 すみだサマーフェスティ バル  | | |
| | 8月 | | 納涼のタバ ウォーターフェア隅田 川レガッタ 川のほとりのピアテラ ス「吾妻橋フェスト」 大東京「和」おどり | 虫ききの会 | 区民納涼盆踊り大会 両国夏祭り盆踊り大会 隅田川おどり納涼大会 錦糸町河内音頭大盆踊 り大会 |
| 秋 | 9月 | 萩まつり | 大相撲秋場所 都民スポレクふれあい 大会・ウォーラリー | 秋季大法要 月見の会 鍼供養  | 白鬚神社例祭 香取神社例祭 飛木稲荷神社例祭 牛嶋神社例祭 |
| | 10月 | 慰霊菊花展  | 秋のすみだ粋と技のめ ぐり歩き ガラス市 すみだまつり・こども まつり 大江戸両国からくり祭 | | |
| | 11月 | | すみだ匠の競演 北斎祭り | 筆供養 | すみだ太鼓まつり 秋葉神社鎮火祭 |
| 冬 | 12月 | | すみだイルミネーショ ン | 義士茶会 義士祭 吉良祭・元禄市 | |
| | 1月 | | 大相撲初場所 | 隅田川七福神めぐり 七草がゆの会 | |
| | 2月 | 香取園梅まつり 百花園梅まつり  | 江戸糸あやつり人形 国技館 5000人の第九 | 水行国袴会 | 初午祭 |

4 来街者を優しく迎える「iのまち」をつくる

観光地の評価は、観光資源そのものの魅力とともに、情報が事前に知らされているか、アクセスが容易であるか、現地で適切な情報が手に入れられるか、また地元の人たちの対応が親切かどうかなどによっても大きく左右されます。

墨田区では、海外からの来街者やマスメディア関係者を視野に入れ、きめ細やか情報発信を行うとともに、街を快適に回遊するための各種の案内システムを構築して、区民一人ひとりが来街者を優しく迎える「**i** (information、愛、逢い) のまち」づくりに取り組みます。

(1) **i** スポット（観光案内機能）の拡充

来街者が目的地へスムーズに移動するための**i**スポット（観光案内機能）を充実させます。

主要駅周辺に観光案内所を設置するのをはじめ、観光拠点エリアや観光軸に沿って案内板やサイン、個々の観光資源の解説板などを増やすなど、観光案内機能を拡充します。

(2) 観光プラザ（仮称）の整備

タワーエリアに設置する観光案内の拠点施設「観光プラザ」（仮称）は、下町文化を体感できる施設として整備します。

(3) 情報発信媒体の多様化・マスメディア媒体との提携

ホームページやブログ、コミュニティサイトなどを活用した情報発信を充実させるほか、ワンセグ放送を活用した観光情報の提供や、観光ポスターの制作など発信媒体の多様化をはかります。また、ホームページの工夫やメールマガジンの発行など、こだわりを持ったターゲットにも情報が届くよう、登録者向けに観光情報提供する仕組みを整えます。

また、マスメディアの影響力を考慮し、マスメディアと継続的に接触し、定期的なニュースリリースによる情報提供や直接的なコンタクトによる生の情報交換を行い、きめ細かな広報を展開します。

(4) フィルムコミッションの推進

映画、テレビドラマ、CMなどのロケーション撮影を誘致し、ロケ活動をスムーズに進める工夫で評価を高めるとともに、観光資源の発掘や観光情報の発信などを効果的に行うためのフィルム・コミッションを、墨田区文化観光協会などを活用して推進します。

(5) 世界に向けた情報発信

多様な言語によるホームページやマップを充実させるとともに、外国人旅行者が宿泊したり立ち寄りしたりする施設や店舗と連携を図ります。また、外国メディアに対する情報発信を強化し、墨田区の観光を紹介してもらうための働きかけを継続的に行ないます。

(6) 「区民みんなが観光ガイド」の推進

多くの区民が、愛着と誇りをもって来街者を案内できるような仕組みを整えるため、区民が地域について学ぶ機会を積極的に設けます。来街者が路地などの生活空間を散策する際の「マナーブック」を区民の参加により制作します。

観光ボランティアガイドについては、今後も継続的に養成していくとともに、ガイドの会の運営を支援します。街歩きの来街者が多く訪れる時期には、観光ガイドツアーの参加受付を所定の曜日・時刻に行う「定点ガイドツアー」を定着させます。加えて、「外国語に対応できる」「こだわり知識が豊富」など特徴のあるガイドの掘り起こしに取り組みます。

(7) 「iのまち」への参加促進

区内外の多くの人々が、区内のお気に入りの観光スポットの情報や画像などをホームページやブログなどに投稿したり、ネット上の掲示板への書き込みを通じて観光情報を交換したりするような仕組みをつくり、「すみだ観光」に関する情報交流への参加を促進します。

5 快適な歩行空間と交通ネットワークを整備する

墨田区の観光の基本である「街歩き観光」を推進するため、安全で快適な歩行環境の形成と案内・誘導手段の充実を図ります。

また、来街者が利用する公共交通機関を更に充実させるため、地下鉄の延伸による鉄道網の充実、路線バスの充実そして交通結機能の強化を通じて公共交通の利用価値を向上させます。

さらに、レンタサイクルシステムの導入をはじめとした多彩な交通手段を提供します。

(1) 快適に歩ける道路・街なみ環境の整備（案内性・安全性）

墨田区の観光資源を歩いて存分に楽しめる歩行空間の整備・修景と観光案内板の整備等を行います。

〔取り組み例〕 ◇安全で快適な歩行環境の形成

- ・コミュニティ道路（歩行者優先道路）の整備
- ・休日における歩行者専用道路化
- ・街歩きスポットの整備（トイレ、観光情報などを備えた施設）
- ・歩道等公共空間における街歩き環境向上（植栽などの再整備、ベンチの設置など）
- ・公共交通関連施設におけるバリアフリー化の促進

◇案内・誘導手段の充実

- ・来街者にやさしい総合的な観光情報の提供
- ・わかりやすい案内サインの設置

(2) 拠点間の効率的な移動（移動性・回遊性）

観光拠点間を効率的にスムーズに移動できるように、公共交通機関のさらなる充実をはかるとともに、交通結節機能の強化により乗換え等の利便性を向上させます。

〔取り組み例〕 ◇鉄道網の充実

- ・地下鉄8号線（有楽町線）の延伸
- ・地下鉄11号線（半蔵門線）の延伸

◇路線バスの充実

- ・路線バスの新設・再編
- ・バス停の機能強化（観光情報提供、ベンチ拡充など）

◇公共交通の利用価値向上

- ・交通結節点機能の強化（乗換えの円滑化など）
- ・既存の交通機関と連携した運賃制度の導入（乗換割引など）
- ・自家用車の周辺駐車誘導
- ・観光施設との連携による特典付与（利用割引など）

(3) 街並みを満喫できる交通手段（利便性・界隈性）

街歩きとあわせて、自転車の利用環境充実をはかるとともに、人力車、ペロタクシーなどの新たな交通機関の導入を進めます。

〔取り組み例〕 ◇自転車利用環境の充実

- ・ レンタサイクルシステムの導入
- ・ サイクルステーションの整備
- ・ 自転車通行環境の向上（自転車走行空間の確保など）

◇新たな交通機関の導入

- ・ 循環ミニバスの導入
- ・ 観光客にとって魅力的な交通機関の導入（人力車、ペロタクシー、オープンバスなど）

(4) 水辺からの景観を楽しむ舟運（景観整備・話題性）

「水都すみだ」の再生をめざし、舟運による水上ネットワークの拡充、吾妻橋防災船着場を活用した観光舟運、大横川親水公園の改修やバリアフリー化などに取り組みます。

【参考】

関連資料 「墨田区観光まちづくり総合交通戦略」（平成 20 年 1 月 墨田区）